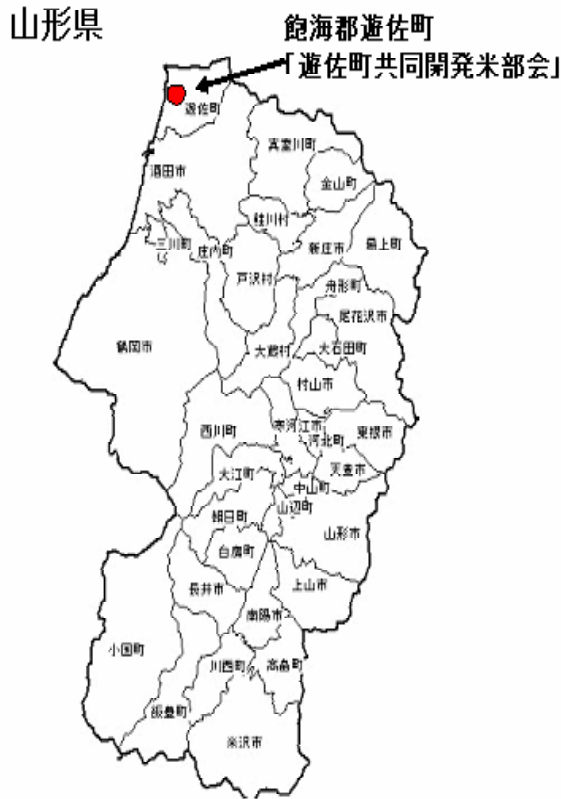


# 平成18年度農林水産大臣賞

山形県飽海郡遊佐町

「遊佐町共同開発米部会」

## 【位置図】



## 【地区の概要】

事 項	内 容
地区の規模	新市町村単位(108集落)
地区の性格	中間農業地域
農 家 率	30.8%
	(内訳) 総世帯数 5,071戸 農 家 数 1,562戸
販売農家数	1,213戸
	(内訳) 専業農家 154戸 Ⅰ兼農家 302戸 Ⅱ兼農家 757戸
主要作物 ( )内産出額	水 稻 (3,550百万円) 豚 (1,250百万円) メロン (450百万円)
農用地の状況	耕地計 3,019ha (内訳) 田 2,583ha 畑 291ha 樹園地 67ha 牧草地 78ha 耕地率 14.5% 農家一戸当たり農用地面積 1.9ha

## 【むらづくりの経緯・動機等】

- ・ 昭和46年、旧遊佐町農協が生活クラブ生協と米の産直提携を開始。
- ・ 昭和59年以降、農協青年部有志がササニシキ単一品種作付けの弊害への不安と消費者の安全な食べ物への意識の高まりから、土づくりと低農薬による新たな米の品種導入に向けて生活クラブ生協と共同研究を始め、複数品種による共同開発米事業として取組を本格化。
- ・ 平成4年、事業の拡大に対応するため、農協の下部組織として86名で「遊佐町共同開発米部会」を設立。

## 【推進体制】

- ・ 遊佐町の販売農家数約1,200戸のうち共同開発米部会の会員数 491人(平成16年)。米の単一経営及び準単一経営が会員の8割を占め、全量が農協出荷。
- ・ 農作業や各取組の単位として「地域班」(集落単位、70班)を組織し、栽培基準や作業スケジュール等情報の共有とこれらの遵守の徹底を図りながら、部会員相互の責任と協力により米づくりに当たっている。
- ・ 運営組織である委員会(委員21名、部会長・副部会長2名)のもとに、各事業の専門部署である総務部(ホームページの更新、トレーサビリティの推進など)、企画部(情

報誌の発行、加工品研究など)、経営部(特別栽培米の拡大推進等)、組織部(消費地交流会・地域班会の実施など)を設置。

## 【生産面における寄与状況】

- ・ 「遊YOU米」と称する共同開発米づくりは、堆肥の施用、農薬の使用や生産履歴の記帳等の栽培基準の遵守が徹底され、平成17年度に山形県の特別栽培米の認証を受ける。平成18年度の作付面積は約930haにおよび遊佐町が進める環境保全型農業をリードしている。
- ・ 部会・農協・生活クラブ生協間で生産量や価格の決定、農法の確認等に関する協議を年3回実施。年間登録制度による生産量の確保と生産者原価方式による安定した価格設定により生産意欲が向上。
- ・ 生産者と消費者が2億円の基金を創設し、天候の影響等による収量減の場合の生産者の所得の安定に寄与。

## 【生活・環境整備面における寄与状況】

- ・ 生活クラブ生協との交流から農家の婦人達为中心となり「せっけん」の使用運動を展開し、町内の「せっけん」の使用率が8割を超えるまで定着、この運動から、町は清流を守る基本条例を制定。
- ・ 産地交流会・消費地交流会の開催やホームページの開設、情報誌の発行により、米の消費拡大や安全な米づくりなどについて生産者と消費者の理解を深めている。
- ・ 町内の小中学校で、無農薬栽培米の昼食による地産地消、農業体験により食農教育を展開。



鳥海山と遊佐町の水田地帯



消費地交流会。部会員が主な出荷先である関東方面に定期的に出向き、消費者との意見交換や共同開発米の取組を説明。



せっけんの加工状況。農家の女性達を中心となり、食用廃油を粉せっけんや固形せっけんに加工し販売。



産地交流会で遊佐を訪れた子供たちの田植え体験